

## イノシシの生態解明と農作物被害防止技術の開発

### 1 中核機関・研究総括者

(独)農業技術研究機構近畿中国四国農業研究センター  
仲谷 淳

### 2 研究期間

2003～2006年度(4年間)

### 3 研究目的

近年、中山間地では、イノシシによる農作物被害が深刻化し、イノシシの生態及び行動特性を踏まえた効果的な被害対策を講ずることが急務となっている。

このため、本研究では、最新のGPSテレメトリ技術(GPSを利用した自動追跡技術)を用いて、イノシシの生態及び行動特性を解明するとともに、効果的な農作物被害防止技術の開発を目指す。

### 4 研究内容及び実施体制

GPSテレメトリ技術の活用を中心としたイノシシの行動及び生態学的特性の解明(滋賀県農業総合センター、帯広畜産大学、奈良大学、山口大学、NTTアドバンステクノロジー(株)、(独)農業技術研究機構近畿中国四国農業研究センター)

GPSテレメトリ法を用いて、都市近郊中山間地及び積雪地域におけるイノシシの行動及び生態を明らかにする。また、密度推定法の開発及び遺伝子交流域の調査を行うとともに、捕獲個体の食性、年齢構成などを解析する。

被害防止対策の有効性検証システムの開発及び効果的な防除技術の開発(滋賀県農業総合センター、島根県中山間地域研究センター、(株)九州自然環境研究所、(独)農業技術研究機構近畿中国四国農業研究センター)

防護柵及び狩猟駆除による獣害回避効果をイノシシの行動変化から評価する。また、効果的な柵及び捕獲機の開発を行う。

獣害抑制に効果的な土地利用モデルの構築(滋賀県農業総合センター、滋賀県立大学、島根大学)

放牧など新たな農林地利用による被害回避効果を検証する。また、地理情報システムを用いて、集落形態などの地理的環境条件と被害状況との関連性について解析し、被害を受けにくい要因を抽出する。

総合的獣害防止技術の開発及び新技術の効率的な移転システムの構築(滋賀県農業総合センター、(独)農業技術研究機構近畿中国四国農業研究センター)

総合的獣害防止技術を開発するとともに、各般の広報活動を通じて効率的に普及させる。

### 5 目標とする成果

総合的獣害防止技術の開発及び獣害に強い土地利用の方向性を提示することにより、農業と自然環境が共生する野生動物対策が加速される。